

子供の腎臓病について

はじめに

腎臓は、老廃物を排泄するだけでなく、水、電解質の調節、内分泌機能を有する器官です。病気になると、体の恒常性が失われ、いろいろな症状が現れます。今回は、学校検尿と小児に多い急性糸球体腎炎とネフローゼ症候群について述べます。

1. 腎臓病の早期発見と対応(学校検尿)

学校検尿は、昭和49年4月から腎臓病の早期発見・治療を目的に開始されました。一次検尿の血尿陽性率は1-5%、蛋白尿陽性率は0.5-3%、両者陽性率は0.1-0.3%です。2-3回続けて陽性の場合、詳しい検査が必要です。学校検尿により、慢性糸球体腎炎の予後は改善しています。必ず、検査は提出しましょう。

2. 子供に多い腎臓病

① 急性糸球体腎炎

原因の多くは、A群β溶連菌感染

症です。感冒症状から2週間程経過した後、罹患者の5-10%に起きます。症状は、コーラ色の血尿と乏尿、むくみです。むくみや血圧が高い場合は、3~5週程の入院と安静、水分制限が必要です。溶連菌に罹患後、気になる症状が出た場合は、受診して検査を受けることが大切です。

② ネフローゼ症候群

原因は不明ですが、腎臓の毛細血管が障害され、蛋白尿、全身のむくみを呈する病気です。1年間に小児10万人に2-5人が発症します。ステロイド薬が、80%に効果があり、1~2ヶ月程の入院になります。7割は、2回以上再発するので、定期的な受診と自宅での尿の検査が大切です。

J A 広島総合病院
小児科 藤井 寛

